

 Nakamura Nakamura Choukou

REPORT

第52期 年次報告書

2021年4月1日～2022年3月31日



株式会社 中村超硬

証券コード：6166

構造改革 完了へ

代表取締役社長
工学博士

井上 誠



Q 第 52 期（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）のご報告をお願いいたします。

A 第 52 期においては自動車関連産業の回復が遅れた影響を受け、特殊精密機器事業の耐摩工具関連分野において厳しい受注環境となりましたが、産業機械向け実装機用ノズルの売上が好調に推移した結果、売上高は前期を大きく上回りました。

また化学繊維用紡糸ノズル事業においては、不織布製造装置や不織布関連ノズル等の売上が堅調に推移したことに加え、風力発電用ブレード向け炭素繊維用ノズルの売上が好調に推移いたしました。

電子材料スライス周辺事業においては、新型ダイヤモンドワイヤ製造装置「PHX-01」が中国大手ダイヤモンドワイヤメーカーと成約に至り、その対価の一部を第 52 期に計上いたしました。また半導体向けダイヤモンドワイヤについては複数の顧客において正式採用となり販売量は徐々に増加しております。

マテリアルサイエンス事業においては、ナノサイズゼオライトの顧客での評価は着実に進捗しておりますが、新製品の開発であるが故に顧客評価に時間を要しており、売上はサンプル提供が中心となりました。なお第 52 期においてナノサイズゼオライトのパイロットプラントの機械設備に係る減損損失として 416 百万円を計上いたしました。

これらの結果、当連結会計年度における売上高は 4,038 百万円（前期比 6.1% 増）、営業利益は 311 百万円（前期比 85.9% 増）、経常利益は 338 百万円（前期比 85.9% 増）、親会社株主に帰属する当期純損失は 257 百万円（前期は 7 百万円の親会社株主に帰属する当期純利益）となりました。

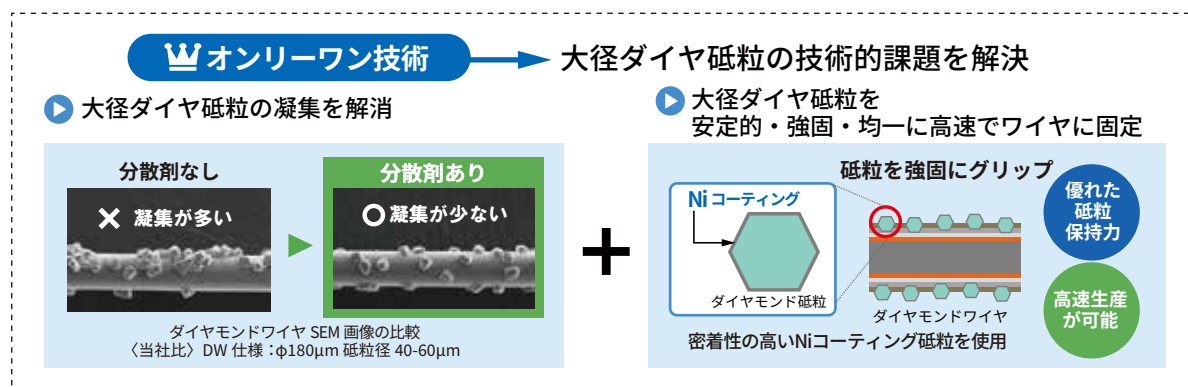
Q 第 53 期（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）の事業戦略と業績見通しについてお聞かせください。

A 特殊精密機器事業においては、半導体不足や原材料価格の高騰等の影響を受け、厳しい受注環境が続くものと予想しております。このような事業環境の中、売上が伸びつつある自動車産業関連分野や、新規分野となる半導体製造装置関連分野において顧客開拓を進めるとともに、「大廃業時代」の到来や、地政学的リスクに備えた国内及び海外のサプライチェーン再編に伴う「ものづくり需要」を取り込むことにより、持続的な成長を目指してまいります。

また電子材料スライス周辺事業においては、当社ではシリコン半導体や SiC などの化合物半導体向けウエハのスライス加工方法が、「遊離砥粒方式」からダイヤモンドワイヤを用いた「固定砥粒方式」への転換が進み、ダイヤモンドワイヤ需要が高まるものと予想しております。特に急速に成長を続けるパワー半導体に使用される SiC や窒化ケイ素は非常に硬く加工性が悪いため、使用されるダイヤモンドワイヤには 40 μ m から 60 μ m の大径ダイヤモンドワイヤ砥粒が求められますが、従来技術では大径ダイヤモンドワイヤ砥粒をワイヤに固定することが困難でした。

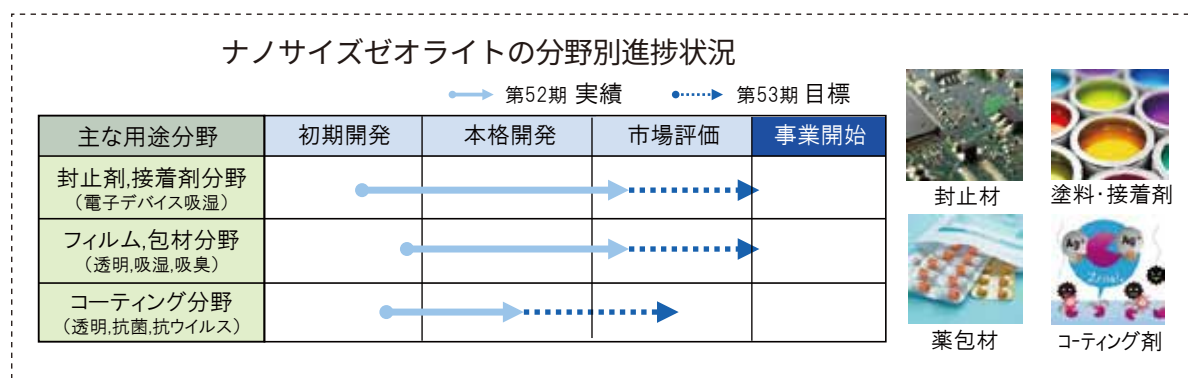
当社が新たに開発した砥粒分散技術は、砥粒の凝集を解消するだけでなく、ワイヤへの固定が困難であった大径ダイヤモンド砥粒を、安定的に、強固に、かつ高速でワイヤに固定することを可能とする「オンリーワン技術」です。この「オンリーワン技術」を活用し、需要増が見込まれる SiC や窒化ケイ素向け用途をはじめ、安定した需要が見込まれるサファイア向け用途でのダイヤモンドワイヤの販売拡大に取り組んでまいります。

また現在、ダイヤモンドワイヤの生産、消費ともに中国に一極集中しておりますが、当社ではサプライチェーンの変革により、インドや欧米、日本を含む東アジア、東南アジア等においても新たなダイヤモンドワイヤ生産市場が成長するものと予想しております。当社が開発したダイヤモンドワイヤ製造装置「PHX-01」は、その性能が市場でも高く評価されており、当社では中国以外の新たなダイヤモンドワイヤ生産市場に対しても、積極的に「PHX-01」の営業活動を展開し、販売拡大に注力してまいります。



マテリアルサイエンス事業においてはナノサイズゼオライトの本格的な事業開始を目指し、「透明・吸湿フィルム」「透明・吸湿コーティング」「透明・脱臭フィルム」など様々な市場ニーズを満たすべく顧客評価を重ねており、各分野において案件は着実に進捗しております。

また新規技術開発についても、第52期においてはナノサイズゼオライトに対する表面処理の最適化技術を開発し、樹脂材料への添加性を大幅に改善することによりパフォーマンスの大幅向上を実現いたしました。この結果、エンドユーザーにおける評価が大きく進捗し、特に有機ELをはじめとする電子デバイスの信頼性向上を目的とした「封止剤・接着剤分野」での進捗が顕著であり、事業開始に向けた期待値が高まっております。第53期においては各分野における顧客評価と技術開発を着実に進捗させることにより、本格的な事業開始に向け取り組んでまいります。



子会社日本ノズルの化学繊維用紡糸ノズル事業においては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う世界的なマスク需要の高まりは既に収まっているものの、不織布製造装置や不織布関連ノズルの需要は今後も一定水準で持続するとみており、引き続き安定的な受注確保に努めてまいります。また第52期より積極的な営業活動を進めてきた風力発電用ブレード向け炭素繊維用紡糸ノズルの売上拡大を図ってまいります。

なお、大型不織布市場への参入を目指し建設中の新工場の稼働開始を睨み、大型不織布製造用ノズル等の大型部品加工関連市場の開拓を進めてまいります。

▶ 第53期（2023年3月期）連結業績予想

(単位：百万円)

	第2四半期（累計）			通 期（累計）		
	第52期実績	第53期予想	前期比	第52期実績	第53期予想	前期比
売上高	1,832	1,700	△7.2%	4,038	3,700	△8.4%
営業利益	101	40	△60.6%	311	240	△23.0%
経常利益	100	30	△70.1%	338	230	△32.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△51	△50	—	△257	50	—

セグメント別 売上高予想

(単位：百万円)

特殊精密機器事業
電子材料スライス周辺事業
マテリアルサイエンス事業
化学繊維用紡糸ノズル事業

950
250
100
2,400

Q ナノサイズゼオライト製造用パイロットプラントについて教えてください。

A ナノサイズゼオライトの製造工程を説明することはできませんが、当社和泉工場に設置したパイロットプラントは設備投資額約 4.1 億円、1 ヶ月に約 1.2t の生産能力を有する世界で唯一のナノサイズゼオライト製造用のプラントであり、量産稼働に向けた試運転や生産条件の調整を行っております。

当該プラントの設置については、顧客企業からもナノサイズゼオライトの安定調達に対する安心感が増したとの声も多く、早期稼働開始に向け全力で取り組んでまいります。量産顧客の獲得やパイロットプラントの量産稼働開始等、株主の皆さまにお知らせできる状況になりましたら、改めて開示させていただく予定としております。



Q 株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

A 当社グループは第 50 期（2020 年 3 月期）において債務超過を解消し、第 51 期（2021 年 3 月期）において継続企業の前提に関する注記を解消いたしました。しかしながら当社グループが取り組んでいる構造改革は未だ完了しておらず、金融機関に対する借入金の返済方法の変更を主な内容とする条件変更の合意は 2023 年 3 月までとなっていることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象または状況が存在しております。この状況を解消することが当社グループの最優先課題であり、そのために次に掲げる 3 項目を重要な課題として、全社一丸となって取り組んでまいります。

1 既存事業の収益力強化

既存事業のうち、特殊精密機器事業及び化学繊維用紡糸ノズル事業については、安定的な収益を確保しつつ、積極的な成長戦略を実施してまいります。
また、電子材料スライス周辺事業については、半導体向けダイヤモンドワイヤの開発・販売に取り組むとともに、当社が開発した新型ダイヤモンドワイヤ製造装置「PHX-01」の販売に取り組んでまいります。

2 ナノサイズゼオライトの事業化

新規事業として取り組んでいるナノサイズゼオライトの開発については、2023 年 3 月期中の量産顧客の獲得を目指し、早期の事業開始に向け取り組んでまいります。

3 金融機関との長期的な借入契約の締結

当社グループとしては、メインバンクを中心に各金融機関とは緊密な関係を維持できていることから、継続的な支援はいただけたと考えておりますが、各金融機関との長期的な借入契約締結に向け取り組んでまいります。

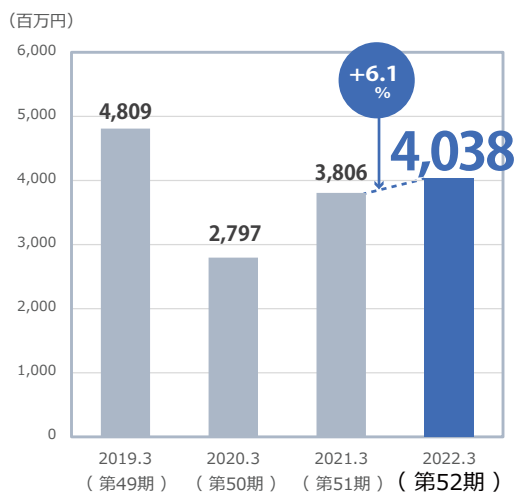
第 53 期は当社グループが取り組んできた構造改革を完了させ、新たな成長ステージに向けスタートを切る一年とすることを決意しております。

株主の皆様には、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

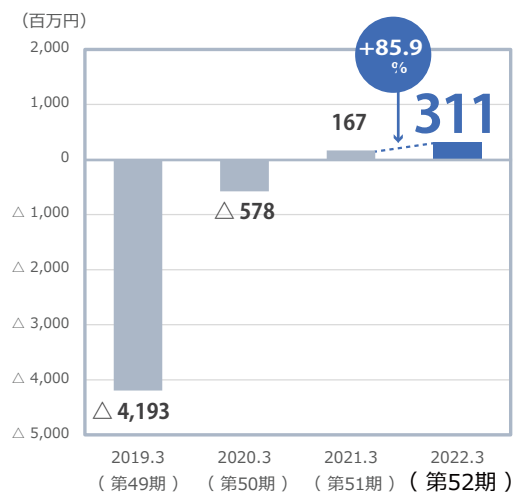
財務ハイライト (連結)

※百万円未満切捨て
※ ● %表示は前期増減率

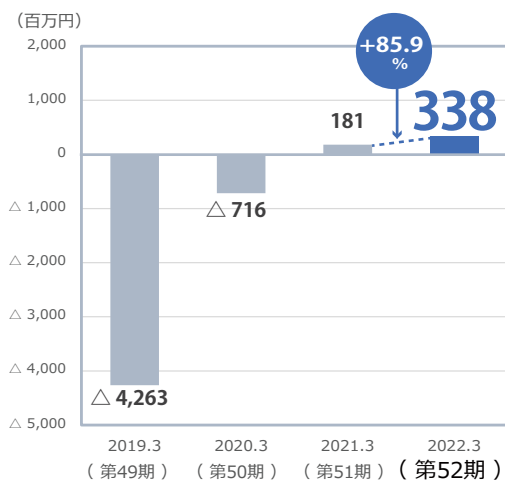
売上高



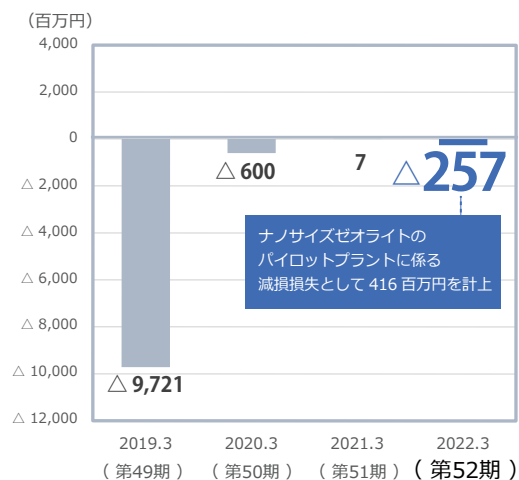
営業利益 (△損失)



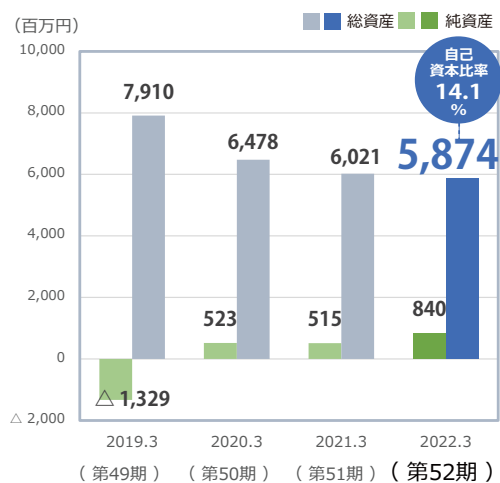
経常利益 (△損失)



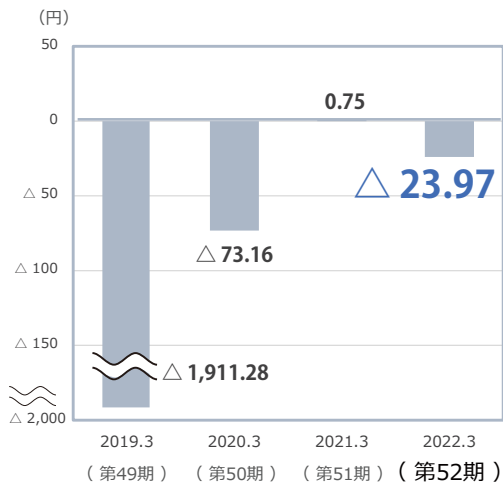
親会社株主に帰属する当期純利益 (△純損失)



総資産・純資産



1株当たり当期純利益 (△純損失)



さらに詳しい財務ハイライトはこちらより
ご覧いただけます。
※当社ホームページ「IR/財務ハイライト」



こちらより代表取締役社長 井上 誠による
決算説明動画をご覧いただけます。
※当社ホームページ「IR/動画配信」



会社概要

(2022年3月31日現在)

商号	株式会社中村超硬
代表	代表取締役社長 井上 誠
資本金	349百万円
創業/設立	創業：1954年/設立：1970年12月
事業内容	・ダイヤモンドワイヤ製造装置の開発・販売、 半導体向けダイヤモンドワイヤの開発・販売 ・特殊精密部品及び工具の設計・製造・販売 ・化学繊維用紡糸ノズル及び周辺部品、不織布製造装置、 不織布関連ノズル等の設計・製造・販売
本社所在地	〒593-8323 大阪府堺市西区鶴田町 27-27
従業員数	連結：163名 単体：89名
連結子会社	日本ノズル株式会社 上海那科夢楽商貿有限公司

役員

(2022年6月24日現在)

代表取締役社長	井上 誠
専務取締役	三上 正幸
常務取締役	井上 紘章
取締役	藤井 秀亮
取締役	川岸 悟史
取締役	田植 啓之
取締役	藤原 邦裕
取締役	井上 絢哉
取締役	京谷 忠幸
取締役	大山 隆司
監査役(常勤)	戒能 眞介
監査役	松村 安之
監査役	中川 雅晴

注) 1. 取締役 京谷忠幸、大山隆司の両氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 戒能眞介、松村安之、中川雅晴の3氏は、社外監査役であります。

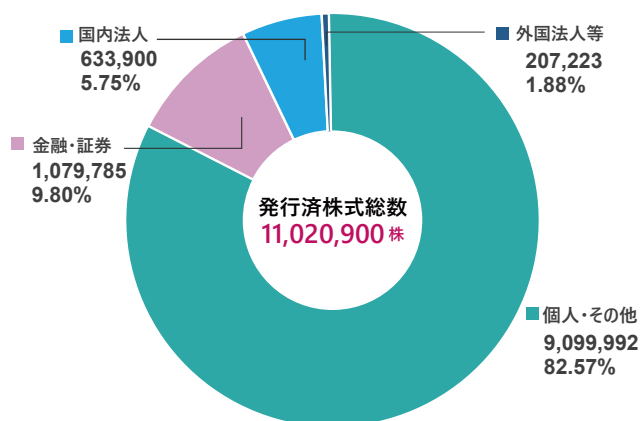
株式の状況

(2022年3月31日現在)

発行可能株式総数	13,000,000株
発行済株式の総数	11,020,900株
株主数	9,403名
大株主(上位10位)	

株主名	持株数	持株比率(%)
株式会社SBI証券	566,000	5.14
井上 誠	258,920	2.35
株式会社YMD	248,000	2.25
株式会社ナカムラコーポレーション	179,000	1.62
楽天証券株式会社	161,200	1.46
井上 阿佐美	153,780	1.40
井上 紘章	133,800	1.21
井上 絢哉	127,500	1.16
松井証券株式会社	99,800	0.91
津野 新治	91,800	0.83

所有者別分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 0120-094-777 (通話無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.nakamura-gp.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

 **Nakamura**
株式会社中村超硬

〒593-8323
大阪府堺市西区鶴田町 27-27
<http://www.nakamura-gp.co.jp>

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求、配当金の振込指定、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で支払いたします。